

平成24年度全国学力・学習状況調査における熊本県の結果について

1 調査実施日 平成24年4月17日（火）

2 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

3 調査内容

- ・抽出調査の対象となった学校の小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒を対象
- ・教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科で実施、他、質問紙調査
- ・国語、算数・数学は、主として「知識」に関する問題（A）と、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関する問題（B）
- ・理科は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

4 本県の参加状況（公立小中学校）

- ・小学校99校（内1校は、特別支援学校小学部）
中学校78校（内1校は、特別支援学校中学部）
- ・抽出率：小学校25.4%、中学校45.1%

5 調査結果の概要

- ・本県の教科に関する調査結果については、調査方式が抽出調査で実施されており、国が示す平均正答率についても誤差を含んだ数値の幅で示され、一昨年度（昨年度は東日本大震災のため中止）の調査結果とは単純に比較できないところもあるが、ほぼ全国平均と同じ傾向にある。
- ・新しく加わった理科に関しては、小学校、中学校とも全国平均を上回っている。
- ・「知識」に関する問題に関して、小中学校の国語、中学校の数学でやや全国平均を下回る状況にあり、今後、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る徹底指導の充実に努める必要がある。
- ・質問紙調査では、「学校のきまりを守っている」「人の役に立つ人間になりたい」について小学校、中学校ともに9割を越え、全国より高い状況にある。

6 教科に関する調査の結果（公立小中学校）

*本調査結果は、学力の特定の一部である。

*括弧内の数値は、平成22年度の平均正答率を示している。

*（A）は、主として「知識」に関する問題、（B）は、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関する問題

学年	小学校6年生				
教科	国 語		算 数		理 科
問題	(A)	(B)	(A)	(B)	(A) (B)を一体的に出題
本県	81.5 ±0.7%	55.0 ±1.1%	73.9 ±0.8%	59.2 ±1.0%	63.5 ±0.9%
	$\left(\begin{array}{c} 83.6 \\ \pm 0.7\% \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 78.2 \\ \pm 0.9\% \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 75.4 \\ \pm 1.0 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 49.3 \\ \pm 0.9 \end{array} \right)$	
全国	81.6 ±0.2%	55.6 ±0.2%	73.3 ±0.2%	58.9 ±0.2%	60.9 ±0.2%
	$\left(\begin{array}{c} 83.3 \\ \pm 0.2 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 77.8 \\ \pm 0.2 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 74.2 \\ \pm 0.2 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 49.3 \\ \pm 0.2 \end{array} \right)$	

学年	中学校3年生				
教科	国 語		数 学		理 科
問題	(A)	(B)	(A)	(B)	(A) (B)を一体的に出題
本県	75.0 ±0.7%	64.4 ±0.7%	61.9 ±1.0%	50.1 ±1.1%	52.7 ±0.9%
	$\left(\begin{array}{c} 75.5 \\ \pm 0.8 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 67.2 \\ \pm 1.1 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 65.5 \\ \pm 1.2 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 45.1 \\ \pm 1.3 \end{array} \right)$	
全国	75.1 ±0.1	63.3 ±0.1	62.1 ±0.2	49.3 ±0.2	51.0 ±0.1
	$\left(\begin{array}{c} 75.1 \\ \pm 0.1 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 65.3 \\ \pm 0.2 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 64.6 \\ \pm 0.2 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 43.3 \\ \pm 0.2 \end{array} \right)$	

(1) 小学校6年 課題が見えた問題例はPDF参照

① 国語科 領域ごとの指導改善のポイント

<話すこと・聞くこと>

○ 司会や参加者の役割の指導を充実する

司会や参加者の役割を理解し、児童一人一人がそれらの役割を推敲することが重要である。

- ・ 司会としては、進行表に沿って進行することを学び、徐々に、話合いが目的に応じて適切に進行するように、提案者や参加者の発言を整理したり、促したり、まとめたりするなどの具体的な場面に合わせて指導することが重要である。
- ・ 参加者としては、進行に合わせながら、積極的に自分の考えを発言し、話合いに参画するように指導することが大切である。

- ・（参考：平成23年度全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例「協議と討論における司会者として様々な状況に対応しながら、話し合いをよりよい方向に導く」

○ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話し合う指導を充実する

目的に応じて、図表や絵、写真などの資料を取り上げ、そこから読み取ったことを基にして話したり、聞いたりすることが重要である。

- ・ 図については、分類や組織、構成や関係、手順や過程などが端的に表されたものを取り上げるようにすることが大切である。
- ・ 表やグラフについては、変化や傾向、順位、時間の経過などを捉えたり、全体の構成要素を概観したりするのに役立つものであり、多様な表現方法を用いたものを取り上げるようにすることが大切である。
- ・（参考：平成21年度全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例「資料や数値を根拠にして考えたことを話し合う」

<書くこと>

○ 文の論理を考えて書く指導を充実する

目的や意図に応じて、伝えたい内容を明確に伝えるためには、文の論理を考えながら、一文一文が的確につながるように書くことが重要である。

- ・ 主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を的確に押さえ、重文や複文についての理解が深まるように指導することが大切である。
- ・ 事実と意見の関係、理由や根拠と結論の関係などを的確に押さえることも大切である。とりわけ、一文が長くなる場合においては、適切な接続語を使って二文に分けるなどして、簡潔に書くことができるように指導することが大切である。
- ・（参考：平成22年度全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例「調査報告文を書くために、必要となる複数の文を一文に要約することで、文と文との意味のつながりに注意する」

○ 実用的な文章を書く指導を充実する

社会生活においては、依頼状や案内状、礼状など、実用的な文章としての手紙を書くことが求められる。

- ・ 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にすることが重要である。特に、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙の基本的な構成を踏まえ、それぞれの部分に書く事柄を整理することができるように指導することが大切である。

○ 本や文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりする指導を充実する

本や文章の情報を基にして、自分の考えを広げたり深めたりすることが重要である。

- ・ 書き手がどのような事例を挙げ、理由や根拠としているのか、また、どのような感想や意見、判断や主張などを行い、考えを論証したり説得したりしようとしているのかなどについて、書き手の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていけるように指導することが大切である。
- ・ 考えたことを発表し交流することも重要である。それぞれが考えたことの共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう指導することが大切である。

<読むこと>

○ 適切な雑誌を選んで読む指導を充実する

- ・ 雑多なことが記載された雑誌を、国語科の教材として定期的に取り入れることが重要である。
- ・ 目的に応じて、適切な雑誌を選び、その特徴や編集者の意図を考えながら、効果的に読むことができるように指導することが大切である。
目的に応じて、適切な雑誌を読むことが重要である。
- ・ 比べ読み、速読、摘読、多読など多様な読み方の中から、目的に応じて、効果的な読み方を選択し、活用することが重要である。

○ 複数の資料を関係付けて読む指導を充実する

- 目的に応じて、複数の資料を選び、それらを関係付けて読むことが重要である。
- ・ 目的を明確にすることで、どのような内容を、どのように関係付ければよいかを考えながら読むことができるように指導することが大切である。
- ・ (参考：平成22年度全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例「目的や意図に合わせて行動計画を立てることを通して、必要な情報を関係付けながら的確に読み取る」)

<言語事項>

○ 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れる指導を充実する

- ・ 相手と自分との関係を意識させながら、丁寧語や尊敬語、謙譲語について理解するよう指導することが重要である。
- ・ 丁寧語や尊敬語、謙譲語のほかに、「お花」「お菓子」といった美化語が日常生活の中で使われていることを理解することも大切である。
- ・ 系統を踏まえながら、適切に敬語を用いることができるように指導することが重要である。
第1・2学年：敬体で書かれた文章に慣れること。
第3・4学年：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
第5・6学年：日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

② 算数科 領域ごとの指導改善のポイント

<数と計算>

○ 計算の指導に当たっては、「計算の意味について理解すること」「計算の仕方を考えること」「計算に習熟し活用できるようにすること」というねらいを明確にした指導を重視する

- ・ 文章から分かることを図に表し、数量の関係を理解させ、基準量や比較量を的確に判断させる活動を取り入れ、「倍」という表現を含む文章題の数量の関係を適切に捉え、演算決定ができるようにする。
- 基礎的・基本的な計算の技能の習熟及び定着を図る指導を重視する
 - ・ 数量や図形についての基礎的な能力については、その習熟や維持を図るために、適切な練習の機会を設ける必要がある。その際、児童の学習状況に留意しながら、適度に繰り返し練習の機会を設けることが大切である。

<量と測定>

- 情報過多の場면을提示し、面積を求めるために必要な情報を取り出す活動を重視する

- ・ 図形の求積の際に、情報過多の場면을提示したり、安定した位置に置かれていない三角形を示し、底辺と高さを適切に取り出す活動を取り入れることが大切である。
- **判断の根拠に必要な情報を取り出し、過不足なく説明することができるようにすること**
 - ・ 判断の根拠を説明する際、説明に含むべき事柄には何が必要かを明らかにしたうえで、それを過不足なく表現できているかどうかを確かめる活動を取り入れることが大切である。

<図形>

- **直方体の辺や面の平行や垂直の関係について考察する活動を重視する**
 - ・ 直方体の箱に三角定規を当て垂直の関係を具体的に調べる活動や、見取図や展開図から平行や垂直を見付け、確認する活動を取り入れることが大切である。
- **図形を観察して見いだしたことを、記号などに表しながら筋道を立てて考える活動を重視する**
 - ・ 辺の長さや角の大きさ、面積の等しい部分に○などの記号をつけるなど、図形を観察し、図形の特徴を言葉や記号を用いて考えるとともに、考えたことについて筋道を立てて説明する機会を多く設けることが大切である。
- **発見した事実が、条件の一部を変えた場面にも成り立つかどうかを調べる活動を重視する**
 - ・ ある場面で発見した事実が条件を変えた他の場面でも成り立つかどうかを考えさせ、発展的・統合的に考えようとする学習を取り入れることが大切である。また、「成り立つ、成り立たない」だけでなく、どのようなときに成り立つのか、どのようなときに成り立たないのかを考えさせる活動を位置付けることが大切である。

<数量関係>

- **問題の場면을図に表したり、図やグラフから数量の関係を読み取らせる活動を重視する**
 - ・ 問題の場면을線分図やテープ図に表し、基準量や比較量を的確に捉えさせるようにすることが大切である。
 - ・ 割合を表す円グラフ等のもつ視覚的な特性を用いて、全体と部分の関係を視覚的に捉えさせ、基準量や比較量を簡単な計算で求められるようにすることが大切である。
- **表を用いて二つの数量の対応や変化の仕方の特徴を見いだす活動を重視する**
 - ・ 数量の変わり方を調べる際には、伴ってかわる二つの数量の変化の仕方を表に表し、「一方が2倍、3倍…」なれば、それに伴って他方も「2倍、3倍…」となる比例の関係を基に、一方を□倍したときの他方の大きさを表に表して調べる活動を取り入れることが大切である。

③ 理科 領域ごとの指導改善のポイント

<物質>

- **観察・実験の結果を基に自分の考えを見直し改善する指導を充実する**
 - ・ 観察・実験の結果を基に自分の考えを見直し改善するには、実験前の予想や仮説と実験結果とを照らし合わせながら考察することが重要である。そのためには、観察・実験の前に自分の考えを顕在化し、観察・実験の後に他者の考えと共有化

を図りながら、科学的な見方や考え方として定着するように指導することが大切である。

<エネルギー>

- **実験結果を分析して、全体の傾向や共通性を捉えて考察する指導を充実する**
 - ・ 実験結果を分析して、全体の傾向や共通性を捉えて考察するには、複数回の実験結果をまとめて考察することが重要である。そのためには、算数科の学習などと関連させ、実験結果を表やグラフなどに整理して傾向を捉えやすくしながら分析できるように指導することが大切である。
- **新たな場面において、条件を制御しながら実験を構想する指導を充実する**
 - ・ 新たな場面において、条件を制御しながら実験を構想するには、問題点を把握し、解決方法や問題の解決まで想定することが重要である。そのためには、児童自らが見いだした問題から予想や仮説をもち、実験で制御する条件を表に整理するなどして、変える要因と変えない要因とを比較できる実験計画を立てるように指導することが大切である。
- **水の状態変化を「エネルギーの見方」として捉えて考察する指導を充実する**
 - ・ 水の状態変化を「エネルギーの見方」として捉えて考察するには、水蒸気や湯気が物を動かすエネルギーとして利用されていることに着目して考察することが重要である。そのためには、日常の生活でみられる水の沸騰の様子と、火力発電のタービンや蒸気機関車など水蒸気を利用して動くものとの関連付けて考察できるように指導することが大切である。

<生命>

- **観察・実験の結果を基に実験方法を見直し改善する指導を充実する**
 - ・ 観察・実験の結果を基に実験方法を見直し改善するには、目的に適した実験方法にすることが重要である。そのためには、観察・実験の結果を多様な観点から分析し、実験方法の妥当性や信頼性を吟味し、批判的に捉えて考察できるように指導することが大切である。

<地球>

- **方位磁針を目的に応じて適切に操作する指導を充実する**
 - ・ 方位磁針の適切な操作方法を身に付けるには、方位磁針を使用する目的を明確に意識し、太陽の動きを基にしながら操作を繰り返し行い、技能を習得することが大切である。そのためには、第4学年「B(3)天気の様子」、「B(4)月と星」、第5学年「B(4)天気の変化」、第6学年「B(5)月と太陽」の学習や社会科第3学年及び第4学年の「方位」の学習と関連させたり、方位磁針と地図を活用したオリエンテーリングなどの学習活動を野外で実施したりすることにより、方位磁針を繰り返し使用し、適切な技能を習得できるようにすることが大切である。
- **観察記録を基に、結果を表すグラフを分析する指導を充実する**
 - ・ 「かげの観察記録」を基に、木の影の長さを表すグラフを分析するには、影の長さの変化に着目して観察し、その状況を捉えて判断することが大切である。そのためには、影の動きについて観察を進めていく中で、影の長さを紙テープで表していく学習活動を通して、この紙テープを並べることで棒グラフのようなグラフができ、影の長さの変化について時間と関係付けながら捉えることができるよ

うにすることが大切である。

○ **天気の変化に興味・関心をもち、気象情報を分析する指導を充実する**

- ・ 天気の変化に興味・関心をもち、気象情報を分析するには、継続的に空の様子を観察して記録することが重要である。そのためには、学校行事などと関連させて天気の変化について興味・関心をもち、雲や気温などの様々な気象情報について多面的に考察できるように指導することが大切である。

(2) 中学校3年

① 国語 領域ごとの指導改善のポイント

<話すこと・聞くこと>

○ **話の展開に注意して聞く指導を充実する**

対話や討論などを通して聞くことの指導を行う際には、聞く場面を工夫する必要がある。

- ・ 対話や討論などを第三者として聞く場面を設定することが考えられる。
- ・ 話が目的に沿って展開しているか、話し手は考えや意図を明確にしながらか話しているかなどを捉えさせたり考えさせたりすることが大切である。

<書くこと>

○ **自分の考えを具体例を挙げて書く指導を充実する**

対話や討論などの内容を基に自分の考えを書く際には、話合いの具体的な内容を取り上げて、話題に対する自分の考えを明確にすることが大切である。

- ・ 話題に対する賛否などを示すだけでなく、自分の体験や読書の経験などに基づいた具体例を挙げて、自分の考えを分かりやすく書かせることが重要である。

<読むこと>

○ **明確な目的をもち、自分にとって必要な内容を取捨選択しながら説明的な文章を読み進める指導を充実する**

- ・ 関連する他教科の既習内容を確認させたり、同じテーマを扱った本や資料などを併せて読ませたりして、内容の理解に役立てるようにすることも効果的である。
- ・ 司書教諭などと連携を図り、学校図書館で学習活動を行うことも考えられる。

○ **様々な言語活動を通して文学的な文章を主体的に読む指導を充実する**

文学的な文章を主体的に読むためには、目的をもつことが大切である。

- ・ 朗読するという目的をもって文章を読むことで、場面の展開や表現の特徴などを主体的に捉えることができるようになる。
- ・ 小学生に読み聞かせする、友達に作品のよさを紹介する、作品の続きを創作するなどの言語活動も、中学生が目的をもって文学的な文章を読む上で有効である。

○ **朗読を通して読みを深める指導を充実する**

朗読の仕方の工夫をする際には、叙述に即して内容を捉えた上で、登場人物の心情などを考える必要がある。

- ・ 読み取ったことに基づいて朗読の仕方を工夫し、実際に声に出して読みながら、その工夫が適切かどうかを吟味することで読みを深めることができる。
- ・ 自分が考えた読み方の工夫やその理由などについて意見を交流することは、読みを一層深めていくことにつながる。

<言語事項>

- スピーチ原稿を書かせる際には、話すことを前提とした原稿であることを意識させる必要がある。
 - ・ 「()」や「・・・・・・・・」の表記などを用いた場合には、実際にどのように声に出してスピーチするのかを考えさせることが大切である。
- 語句・語彙の指導に当たっては、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えさせることが大切である。
 - ・ 語感を磨き語彙を豊かにするためには、類義語を取り上げ、相手や場面に応じて使い分けたり、慣用句を話や文章の中で用いて、その意味や用法の違いを考えたりする学習活動が有効である。
 - ・ 敬語については、小学校での学習を踏まえ、敬語の基本的な働きについて、具体的な相手や場面を設定して指導することが大切である。

② 数学 領域ごとの指導改善のポイント

<数と式>

- 数の範囲に基づいて式の値について考察する活動を充実する
 - ・ 文字のとり得る値の範囲を基に式の値を調べたり、式の値がとる範囲と文字の値との関係を検討したりして、数の範囲に基づいて式の値について考察することが大切である。
- 比の意味を理解し、比例式を満たす値を求めたりする活動を充実する
 - ・ 比例式の性質は、比の値が等しいことに基づいていることを理解させることが大切である。
- 方程式の解が問題の答えとして適切なものであるかどうかを調べる必要性と方法を理解できるような活動を充実する
 - ・ 問題の条件を変えると方程式の解が問題の答えとして適切ではない場合があることなどを取り上げ、解が問題の答えとして適切なものであるかどうかを調べる必要性を実感できるようにすることが必要である。
- 事柄を予想し、事柄が成り立つ理由を説明するための見通しをもたせる活動を充実する
 - ・ 整数の性質が成り立つ理由を説明する際、成り立ちそうな事柄を帰納的に見いだす活動や類推する活動を位置付け、予想を明確に表現させること、また、説明の見通しをもたせることが大切である。

<図形>

- 図形の特徴を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明したり、複数の事象に共通する数量の関係や図形の性質を見いだして、統合的に捉える活動を充実する
 - ・ 作図の手順を振り返り、作図によってできる図形の特徴を的確に捉え、その特徴について筋道を立てて説明することが大切である。また、条件の異なる2つの問題場面を振り返り、場面に共通する数量の関係や図形の性質などを明確にすることで、複数の事象を統合的に捉えさせることが大切である。
- 問題解決の方法や手順を、数学的な表現を用いて的確に説明する活動を充実する
 - ・ 問題解決の方法や手順について、図形の性質などの「用いるもの」とその「用い

方」について説明させる場面を設定するなど、問題解決のための方法や手順を的確に説明させ活動を取り入れていくことが大切である。

<数量関係>

- 比例・反比例や一次関数の意味の理解、二元一次方程式と一次関数を相互に関連付けて捉えさせる活動を一層重視する必要がある
 - ・ 二元一次方程式の解を座標とする点の集合が、一次関数のグラフと一致して直線になることの理解を通して、方程式と関数を相互に関連付けて考察することが大切である。なお、指導に当たっては、比例や反比例の意味、座標に点を表すことなど基本的なところに生徒のつまずきが見られることに留意し、丁寧な指導を行うことが求められる。
- 資料を整理し情報を読み取り、それを基に判断した理由を数学的な表現を用いて的確に説明する活動を充実する
 - ・ ある事柄についての判断の理由を説明する場合には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示す必要がある。特に、資料を基にして判断をする場合には、目的に応じて統計的に処理して資料の傾向を読み取り、数学的な表現を用いて的確に説明することが大切である。なお、資料の読み取りを重視する活動においては積極的にコンピュータ等の活用を図ることも大切である。

③ 理科 領域ごとの指導改善のポイント

<第1分野（物理的領域）>

- 観察・実験の結果を分析し解釈したり、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする指導を充実する
 - ・ 観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動を充実し、科学的な思考力や表現力を育成することが大切である。指導に当たっては、実験を振り返ったり、実験の考察を検討したり、科学的な知識や概念に基づいて自分の考えを説明したりするなどの場面を設定し、自らの考えや他者の考えに対して、多面的、総合的に思考して、検討し改善できるように指導することが大切である。
- 探究的な観察・実験を通して、電流と電圧の関係及び電流の働きについて理解を深める指導を充実する
 - ・ 電流回路における探究的な観察・実験を通して、電流や電圧に関する規則性を見だし、電流と電圧の関係及び電流の働きについて理解を深めることが大切である。その際、電流と電圧を川の水の流れと川の落差などに置きかえて考えたり、電流の働きなどを日常生活や社会と関連付けて指導することなどが考えられる。

<第1分野（化学的領域）>

- 観察・実験を通して定量的な関係を見いだす指導を充実する
 - ・ 観察・実験においては、定性的な取り扱いだけではなく、観察・実験を通して量的な関係を見いだすことが重要である。定量的な扱いをするときには、自然事象を理解した上で、実験で得られた実測値を基にして表すことができるような指導が大切である。
- 水に物質を溶かす実験を通して、溶解度と質量パーセント濃度の理解を深める指導を充実する

- ・ 水に物質を溶かす実験を行う際には、小学校第5学年で学習している「物が水に溶ける量には限度がある」ことを踏まえる必要がある。その上で、実際に水に物質を溶かす実験を通して、溶解度や飽和の概念を理解することが大切である。
水に物質を溶かす際は、溶解度を調べさせる指導などが考えられる。さらに、実験の結果を基に計算することで、質量パーセント濃度の理解を深めるとともに、身の回りの飲み物の中の成分の質量パーセント濃度を求めることで、日常生活と関連付けて指導することなどが考えられる。

<第2分野（生物的領域）>

- **身近な生物の継続的な観察や飼育・栽培を通して、生物の体のつくりと働きとを関連付けて理解する指導を充実する**
 - ・ 身近な生物の継続的な観察や飼育・栽培を通して、生物の体のつくりと働きについて観点を明確にして観察し比較することで共通点や規則性を見いだしたり、体のつくりと働きとの関連を説明したりすることなどが大切である。また、生物への興味や関心を高め、生命尊重の態度を育成する上でも、身近な生物の継続的な観察や飼育・栽培を行うことは大切である。
- **観察・実験の目的に即して要因や条件を考えさせる指導を充実する**
 - ・ 観察・実験の計画を行うには、観察・実験の目的に即して要因や条件を考えることが大切である。指導に当たっては、予想を確かめるための独立変数を考えさせたり、条件を具体的に設定させたりして、観察・実験を計画を行う学習活動を充実することが大切である。

<第2分野（地学的領域）>

- **野外観察などを行い、時間概念や空間概念を形成する指導を充実する**
 - ・ 地学的領域の学習においては、地層を空間的に捉え、重なり方や広がり方の規則性を見いだすことが必要である。地層の広がり方を空間的に捉える際は、幾つかの露頭を比較し、その地域に見られる特徴的な地層を使ってつながりを考察させる指導などが大切である。その際、観察結果であるスケッチや柱状図から、立体的にその地域の地層を再現したり、ボーリング調査の試料やその結果の資料をつなぎ合わせて地下の地層のつながりを考察させたりすることが大切である。
- **科学的な知識や概念に基づいて説明する指導を充実する**
 - ・ 基礎的・基本的な知識や技能を活用し、科学的な根拠に基づいて、自らの考えや他者の考えに対して、多面的、総合的に思考して、検討し改善できるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査問題及び解説等については、
国立教育政策研究所ホームページからダウンロードできます。

<http://www.nier.go.jp/12chousa/12chousa.html>

7 児童生徒質問紙調査の結果

成果と課題（◇は成果、◆は課題）
<p>○ 「人の気持ちがわかる人間になりたい」は9割を越え、一昨年度を上回るとともに全国と同じか高い状況にある。また、「学校のきまりを守っている」、「人の役に立つ人間になりたい」についても一昨年度を上回るとともに、それぞれ9割を大きく越え全国より高い状況にあり、熊本の子どもたちの心の育ちについて、よい結果が見られる。</p> <p>◆ 学習に対する関心、意欲、態度について、国語は、小中学生ともに「好き、分かる」の割合が減少し、全国を下回っている。算数・数学は、小学生の「好き」は全国を上回っているものの、中学生の「分かる」は全国を下回っている。</p> <p>◆ 学習時間等について、本県の小中学生の1日当たりの学習時間は、小学生は平日の学習時間が僅かに増加しているものの、全国を下回っている。中学生は平日の学習時間が減少しており、全国との差が縮まっている。休日の学習時間は小中学生ともに増加傾向にあり、全国を上回っている。</p>

8 学校質問紙調査の結果 別添資料参照

9 義務教育課の取組

学校総体として学力向上に向けたPDCAサイクルの確立を
<p>1 「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査）の開発、実施</p> <ul style="list-style-type: none">○ 知識・技能だけでなく、学ぶ意欲をはじめとして、思考力、判断力、表現力等までも客観的に把握できる問題を開発、実施。○ 児童生徒の実態に応じ、学力向上に向けて効果的かつ積極的な活用を工夫し、チャレンジの問題や素材を参考に、思考力・判断力・表現力等を育む教材の開発を推進。 <p>2 「徹底指導」と「能動型学習」とのめりはりをつけた熊本型授業の質を高める取組の推進（授業改善、指導方法の工夫改善に資する資料等）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 「熊本県学力調査報告書」<ul style="list-style-type: none">・各学年、各教科で定着率が低かった問題について、「指導上の改善点」と「指導の具体例」を掲載○ 「ゆうチャレンジ単元別評価問題」<ul style="list-style-type: none">・「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査）の一層の活用、指導と評価の一体化の一層の推進○ 学習評価の一層の充実に向けて～評価基準の設定とそれに基づく授業づくり～（小学校、中学校）<ul style="list-style-type: none">・各教科の評価基準の設定事例等を掲載○ 優れた授業実践（動画）のホームページ掲載<ul style="list-style-type: none">・熊本型授業のすぐれた授業実践を掲載

○学習プログラム「学びっ子」

- ・国語と算数・数学の基礎的・基本的事項について、小学校低学年の内容から系統的に構成

3 その他の取組

○教職員研修会の開催

- ・管理職や学校の中核となる教職員に対し、学習指導要領の趣旨を生かした授業の充実に必要な研修会を実施。指導力の向上を図る。

○校内研修への指導主事（義務教育課、教育事務所）の派遣

- ・研究指定校や各学校における校内研修の一層の充実に図る。

○研究指定校における研究成果の普及・還元

- ・新学習指導要領や児童生徒の実態に応じた指導方法の工夫改善及び評価等の実践的研究に取り組む。成果については、県下全域に周知する。

○家庭や地域と連携した基礎学力の向上に向けた取組の推進

- ・「基礎学力向上システム推進事業」（H22～H23）におけるモデル校の研究成果の普及。実践事例集を平成22、23年度に配付。